

## 平成29年5月NHK中央放送番組審議会

5月のNHK中央放送番組審議会は、15日(月)、NHK放送センターにおいて、15人の委員が出席して開かれた。

会議ではまず、放送番組の種別および種別ごとの放送時間(平成28年10月～29年3月分)について説明があった。続いて「ボキャブライダー on TV」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、6月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### (出席委員)

- |     |   |
|-----|---|
| 委員長 | 大日向雅美(恵泉女学園大学学長)                                  |
| 委員  | 秋池 玲子(ボストン コンサルティング グループ シニア・パートナー&マネージング・ディレクター) |
|     | 有森 裕子(元マラソンランナー)                                  |
|     | 今井 忠(NPO法人東京都自閉症協会理事長)                            |
|     | 大島 まり(東京大学大学院情報学環/生産技術研究所教授)                      |
|     | 鎌田 實(諏訪中央病院名誉院長)                                  |
|     | 佐野真理子(主婦連合会参与)                                    |
|     | 立野 純二(朝日新聞社論説主幹代理)                                |
|     | 出口 治明(ライフネット生命保険(株)代表取締役会長)                       |
|     | 永田 紗戀(書家/花咲く書道 Studio Saren. Nagata 主宰)           |
|     | 仲道 郁代(ピアニスト)                                      |
|     | 西原浩一郎(金属労協顧問)                                     |
|     | 比嘉 政浩(全国農業協同組合中央会専務理事)                            |
|     | 藤村 厚夫(スマートニュース(株)執行役員メディア事業開発担当)                  |
|     | 増田 雅己(読売新聞東京本社常務取締役論説委員長)                         |

### (主な発言)

<「ボキャブライダー on TV」について>

- 私は英語に対して苦手意識があると同時に、学ばなければいけないという気持ちもすごくある。今回の番組は、そのとっかかりとして気軽に見られるというのが率

直な感想だ。ドラマ仕立てになっており、サラリーマンとカフェのオーナーという設定が私のように英語を覚えない人にぴったりだと思った。「～の番」を、「turn」と表現することを解説するシーンでは、サイコロのイメージを使って視覚的に表現していた点分かりやすかった。「すすぐ」を「rinse」というのもなるほどと思い、日常でも使ってみたいと思わされた。楽しく英語を覚えられるのがよく、これを機会にがんばりたいと思った。「NHKゴガク」のアプリも使ってみた。配信されているラジオ番組をすべて聴いてみたが、聴きたいと思ったらすぐに繰り返し聴けるようになっており、徹底していることに感心した。

- 小さな子どもから高齢の方まで楽しめる番組だと思った。ボキャブライダーというキャラクターに子どもはワクワクするだろうし、大人にとってもクスッと笑えるエッセンスが入っている。一つのことを伝えるのに、幅広い世代に満足してもらえものを作ることは難しいが、ユーモアのあり方がそれをうまくカバーしている点がすごいと思った。ラジオ、アプリとの連動など、さまざまな展開ができるという考え方に感銘を受けた。
- 英語・フランス語・スペイン語など、NHKのテレビ、ラジオ、テキストも含めこれまでいろいろと学んできた。今回、「ボキャブライダー」という新しいコンセプトの語学番組をおもしろく感じた。それはテレビとラジオとアプリの3つがうまい形で融合し、それぞれのメディアの特徴を利用したプログラムである点だ。テレビは視覚に訴え、ドラマ仕立てになっている。ラジオは、発音も強調した形で音声波のよさを生かした番組になっている。アプリについては、テレビやラジオではできない、「クイズで理解を深める」という役割が明確で、うまく連動している。さまざまなメディアをどう利用するかはNHKの課題でもあるが、語学での活用はおもしろい企画であり、うまい形だと思う。
- NHKの語学番組、特に英語については、日常、ビジネス、ニュースなど、視聴者の学習ステージに合わせ多彩で充実していると思う。語学学校、教材が氾濫する中で、個々人の能力レベルに応じ、学ぶ意志さえあれば費用のかからない形で語学学習にアプローチしやすい状況を作っていることは、公共放送の役割の一つではないか。番組は短時間のコメディタッチのドラマ仕立てで、学ぶための構えなしに視聴できる。表現しづらいことばに焦点を当てており、単語力を高めるアプローチの一つとして興味深い。テーマによっては語学的な解説、関連の表現などを取り上げ、構成上の工夫もされていると感じる。ラジオ第2のほうも、集中して学ぶという点でラジオの力を改めて感じたし、アプリは反復学習をするうえで必須のアイテムだろうと思った。

番組で「青二才」ということばを取り上げていたが、若い人はあまり使わないことばだと思う。英語で表現しづらいことばを取り上げるという趣旨は分かるが、日常生活で使えるようなものを中心に、どういったことばをテーマに選択するかは、今後の課題ではないか。2020年も視野に入れ、外国人旅行者をいかに取り込むかは経済活性化の大きなポイントだ。そういう状況を意識した番組作りはNHKに当面求められるのではないかと思うので、進めていってほしい。日本は英語の学習時間が相当長いにもかかわらず、ほかのアジアの国と比べても語学力が低いと言われている。NHKはこれまで語学教育に携わり、相当な知見を持っていると思うが、なぜ日本人の英語能力が低位にあるのか、解析し問題提起するような番組も検討してほしい。

- 番組の説明資料に「英語力に差をつけているのは、ズバリ“単語力”」と書いてあるが、そのあたりはNHKが長く語学番組をやってきたからこそ発見できた、日本人が英語を学ぶ上でのポイントなのかもしれない。自信を持ってそれを言えることがNHKならではと感じた。多くの日本人の英語学習は、毎回似たようなところで挫折し、最初に戻る、ということを繰り返しているように思う。短い時間の番組で、紹介する単語は1個であっても、1日1個を覚えれば、忘れるものがあったとしても1年で100個は覚えられるだろう。10年たっても学習を繰り返すことを考えるとすごくよいアプローチだと思う。NHKには15分や20分の基礎的な番組もあれば、5分でも大人にとって意味のあることを教える番組もあり、幅広いアプローチを持っている点が素晴らしい。語学が好きな人は、4月になると今年のNHKはどんな講座があるのかと楽しみに探すと思うが、NHKと言えば「基礎英語」のイメージで止まっている人がほとんどではないだろうか。こんなにもいろいろな種類のおもしろい番組があるということ、Eテレだけではなく、ほかのチャンネルでも見せ、引き込むことができれば、日本人の語学力向上にも貢献できるのではないかと思う。

(NHK側)

「青二才」ということばについては、私たちも議論した。この番組は、学習の手前の部分で、視聴者にいかに英語に興味を持ってもらい、引き付けるかが主題でもある。英語の苦手な人にとって、英単語はアルファベットが無作為に並んでいるようにも見えるかもしれないが、その並びや単語と単語のつながりには実は意味があるという、そうした解説部分で「へー」と思ってもらいたいというのが基本にある。この回については、「青(blue)」と「緑(green)」の色の

対比が落としどころになっており、その解説の部分から逆算し「青二才」ということばを使った。委員からの指摘についても課題として認識しており、それは脚本段階でも常々議論になっている。最も身近で、スッと入れるシチュエーションを今後も意識し、一段高いレベルに持っていきたいと考えている。

日本人の英語力に関して何か申し上げる立場にはないが、NHKは日本人の英語力の向上に対して何らかの貢献ができるのではないかと思う。英語力向上に明確な決まりごとがあるかという点と難しい。おそらく、一般の人が少なくともこの辺りまではたどり着きたいというレベルにおいては、単語力は重要だと思う。そこから先の段階については、単語力ではないのかもしれないが、その手前の部分を担保するのを目的としたプロジェクトが「ボキャブライダー」だ。単語は一朝一夕に覚えられるものではなく、反復して時間をかけて覚えられるよう、アプリでいつでも復習できるようにしている。過去の番組を聴くこともできる。私たちは、NHKだからできることは何だろうと考えている。NHKには多くの英語番組があるが、一つのアプローチですべて解決できるとは思わないし、向き不向きもあると思う。複数のアプローチの中で、必要としている人に届けばよいと思っている。

- コメディータッチの演劇仕立てでとてもおもしろく、4話とも「へー」と思った。きちんと説明している部分が心に残り、それが単語力につながるのかと思った。この番組のような単語の学び方は将来的によいのではと思うが、人それぞれであり、時間がたつにつれ、その結果は出てくるのではないかと思う。番組のターゲットについてはどうなっているのだろうか。夜のカラオケのシーンは、子どもには向かないと思った。どのことばをテーマに持ってくるかが大きな課題であり、それが、視聴者がついていけるかどうかの要素になってくると思う。5分で1話というのは適切な時間かもしれないが、もっと勉強させてほしいと思った。特に4話分続けて見ると、むだな部分も多い気がした。よい単語を選んで番組作りをお願いしたい。
- 広がりのある、使い勝手がよいことばを選ばれていること、「へー」と思わせようとしていることを聞き、得心した。「へー」と思うから印象に残り、そのことばを覚えるのだと思う。

- 昔、NHKラジオの「基礎英語」を、早朝の放送で眠い目をこすりながら聴いたことを思い出した。マーシャ・クラッカワーさんなど、自分が英語を学ぶ過程でNHKの存在は大きかったと思う。NHKが日本の語学教育の分野で一定の役割を果たしているのは、その通りだと思う。今回の番組は、朝の5時台の放送なので、昔の私と同様に今の子どもたちは朝に眠い目をこすりながら見るのかと思ったが、次の瞬間にはたと思い至り、今は録画がある、さらにアプリもある、視聴する時間帯は関係なく、今の子どもたちは恵まれていると思った。アプリ、インターネット上で見られる有利さは、放送と違い、時間の制約がないということだろう。もっと知りたい人に向けて、さらなる探求心、勉強心に応えられるような仕組み、アプリの有利さを使った工夫の余地があるのではないかと思った。
- 語学番組として制作意図もよく反映されていると思った。いろいろなメディアをどう使い分けるかが重要だ。その中でテレビはどのような役割を果たすのか、ラジオやスマートフォンとどう組み合わせるのか。ほかの番組にも応用できるような展開ができればよいと思う。
- 始まり方が斬新で、なぜ日本人がいきなり外国人に変身するのかと、ドラマの設定に気をとられ単語に集中するのに時間がかかった。ラジオでNHKの「基礎英語」を聴いても、ポイントが多すぎてどれを覚えればよいのか分からないということが多々あったが、今回の番組では、使いたくなるシチュエーションが容易に想像できる単語をテーマにしており、覚えるにはすごくよいと思った。一方で、5分の番組だが、単語3つぐらいは覚えられるのではと思った。ドラマ部分が長いので、扱う単語が一つではもったいない。あるいは、一つの単語でも、こういう使い方もあると3つぐらいの用例を出してもらえるとよいと思った。
- 笑って楽しんで見ている間に、単語、言い回し、少々うんちくまで覚えられる、大変よい番組だと思った。ただ番組に登場する人間だけでなく、猫まで外国人に変身するのはいかななものかとも思った。4月から放送しているが、周囲で「ボキャブライダー」を知っている人はいなかったのもっとPRに気を配ってもよいと思う。テレビの放送時間は再放送も含めいくつかあるが、昼間に放送する、また総合テレビでも週1回程度放送するなど工夫したらよいのではと思った。
- テレビとラジオとインターネット、アプリの組み合わせは、「ボキャブライダー」に限らずもっといろいろな番組でもできる気がする。NHKはその力を持っていると思うので、幅広く取り組んでもらえるとよいと思う。番組については、「ネイティブの発音なんて無理」と諦めている人に向けて、こんな風に読んでみたらよく通じ

る、というような発声についての解説もあれば、なおおもしろいと思った。5分の中で、最も説得力があった部分は、ことばのニュアンスの解説部分だ。「turn」の説明でサイコロが回るイメージはうまいと思った。ほかのおふぎけの部分と比べると、解説の配分はもっと多くてもよいのではないか。「ボキャブライダー」を視聴すれば2020年までには外国人との交流が怖くなくなるという展開もすればよいのではと思った。

- 大変おもしろく見たが、4話連続で見るとむだが多いような気もした。5分をもっと役に立つように作ってもらいたい。英語を習得するには繰り返しが大変だ。前の日に学んだことをもう一度おさらいする、ということも番組に上手に入れてもらいたいと思う。アプリを使えば繰り返し学習できるが、高齢者などアプリを使えない人もいる。テレビを見ているだけでも何とかできるという意味で、番組の中で繰り返し学習して身につける工夫も大事ではないかと感じた。
- アプリについては、聴き直す、学習し直すためだけに位置づけられているのがもったいないと思った。5分の番組に視聴者が出会える確率は限られている。NHKの教育番組は、勉強する気満々の人が視聴しに来ることが大前提で作られている気がする。今の時代、わざわざ時間を割いて番組を視聴しに来る人がどれだけいるのだろうか。利便性の高いインターネットで視聴者との出会いを作る工夫をし、そこからテレビ、ラジオ、アプリへ誘導するほうが合理的なように思える。NHKがやらなければいけないのは、ふだんNHKを視聴しない、必要ないと思っている人と出会えるようにすることだ。その点でインターネットの使い方は戦略的に重要であり、「インターネットでも使える」というだけではなく、インターネットやアプリを起点としたアプローチがもっと必要ではないか。
- テレビと他メディア、アプリとの調和の取り方は、他の番組にも参考になるのではないか、新しい放送のあり方ではないかという意見が出されたことが印象深い。日本人の語学力の向上に関して、NHKに期待しているという意見も多く、いくつかの提案、要望もあったが、どう捉えているか。

(NHK側)

私たちが課題としていることも含め、いろいろな意見を頂きありがたく思う。5分のうち、もう少し単語の解説に時間を割いたほうがよいのではないかという指摘に関しては、今後、ボキャブライダーが2回登場して解説するような構成も作りつつある。役立つ情報を増やす努力はしているが、意見

を受け止め、改めてどうすればよいのかを考えていきたい。  
初回のほうは、「こんな番組があるのか」と引き付け、視聴のハードルを下げたかったため、解説部分は短めで作る回が多かった。ただ、おふざけだけではもたなくなるのは分かっているのに、「あの番組は解説がいい」と言われるよう、ブラッシュアップを目指したい。インターネットやアプリを起点としたアプローチについても、改めて検討したい。語学学習に限らず、いかにインターネットを活用し、NHKのコンテンツに引き込んでいくのか、今後の大きな課題として検討したいと思う。

すべての意見が身に染みた。番組の存在をまだ知らない方も多くいるので、PRをどうするかというのは重要だ。インターネットで出会うことをいかに作るのかという指摘は貴重だと思った。語学学習は、4、5月に一番熱が高まる傾向にあるが、それをどうやって継続してもらうかが、もう一つの課題だと思う。「ボキャブラライダー」でも、週1回、月1回アプリでテストを行い、ビジュアルも学習意欲を盛り上げるような印象になるよう工夫している。「ボキャブラライダー」を通して、語学学習の継続的な支援の新しいスタイルを検討していきたい。意見を頂きありがたく思う。

#### <放送番組一般について>

- 4月22日(土)のNHKスペシャル シリーズ 激震“トランプ時代”「第1集 トランプ 混迷のアメリカ」を見た。アメリカの現地報告は綿密であり、トランプ政権下のアメリカ社会で何が起きているのかを丁寧に拾っており、楽しく、興味深く見た。移民の苦境、ウォール街の利益を当て込んだうごめき、そうした動きがよく分かり、大変参考になった。ただし、最初の解説部分についてはやや乱暴である印象を持ったので指摘したい。番組では、北朝鮮周辺の海域への空母派遣、シリアへの空爆を指し、ひとくくりに“アメリカ・ファースト”の文脈で読み取ることができると説明していたが、それは違うのではないか。北朝鮮がアメリカに与えている脅威はリアルにあるという議論ができるにしても、トランプ政権はアメリカに関係ないことには手を出さない、世界の警察官ではないということをもって“アメリカ・ファースト”と言ってきたのに、化学兵器を使ったからという理由で、突然シ

リアのアサド政権を空爆したから世界は驚いたのだ。むしろアメリカ・ファーストからの逸脱、急に持ち出した世界の警察官としての立場、あるいは急に持ち出した人道主義だ。その後に出てきた「ニューヨーク・タイムズ」の幹部が言うところの“一貫性のなさ”を代表するトランプ政権のふるまいとも言え、“アメリカ・ファースト”の文脈で語るのは乱暴なくくり方だった。これからもアメリカ報道は続くと思うので、期待している。

(NHK側)

指摘いただいた部分については、私たちも委員と同じような認識だ。番組では舌足らずな部分があったかもしれない。今後のトランプ政権の動きも含め、継続的に取材をする予定なので、舌足らずに終わらないように、十分に伝わるように考え、番組を作っていくたい。

- 4月29日(土)、昭和の日のNHKスペシャル「私たちと“象徴天皇”～政府の有識者会議“最終報告”を受けて～」は有意義な番組だった。身構えがちで難しいテーマだと思うが、天皇の生前退位に関して特例法がもうすぐ成立するであろう状況の中で、天皇制について考える番組の意義は大きかったと思う。国民が慣れ親しんでいる制度であり、大事なことと思っているが、その割には知らないことも多く、深く考えていない部分もあると思う。世論調査で「天皇の生前退位を認めたほうがよいと思いますか」という質問をすると、大半の人が「認めたほうがよい」と答える。一方で、「摂政を置いてお助けするのはよいと思いますか」と質問をすると大半の人が「よいのではないか」と答える。国民がそれほど深く考えていない面はあると思う。番組でも取り上げていた、女性天皇と女系天皇の違いや意味合い、天皇制の継続に及ぼす影響はこれから引き続き国民が深く考えなければいけないことだ。番組では、女系天皇に賛成派の人にも反対派の人にも意見を述べてもらい、分かりやすく考える材料を提供していた。出演者がことばを選び、緊張感のあるやりとりだったのも興味深かった。皇位継承の安定性など、引き続き番組で取り上げてほしい。
- 4月30日(日)放送のNHKスペシャル「憲法70年 “平和国家”はこうして生まれた」、5月6日(土)のNHKスペシャル「日本国憲法 70年の潮流～その時、人々は～」、5月6日(土)のE TV特集「暮らしと憲法 第1回 男女平等は実現したのか」を見た。いずれも憲法施行70年ということで制作したのだと思う。NHKスペシャル「憲法70年 “平和国家”はこうして生まれた」では、単に憲法ができたというのではなく、平和ということばをどういう気持ちで憲法に織り



込んだのがよく伝わった。それも独自の資料発掘だった。NHKスペシャル「日本国憲法 70年の潮流～その時、人々は～」とE TV特集「暮らしと憲法」については、よく議論されるような、憲法がいかにしてできたのかということではなく、70年間私たちが憲法にどう向き合ってきたのかという、歴史的な視点を感じさせる番組だった。

- 憲法施行70年ということでNHKは精力的に憲法に関わる番組を多様な観点で放送していた。4月30日(日)のNHKスペシャル「憲法70年 “平和国家”はこうして生まれた」は憲法9条に焦点を当て、敗戦直後、天皇の勅語の修正過程を示すこれまで極秘とされていた文章、改正憲法の審議を進めた衆議院小委員会の速記録など新しい資料の発見、また関係者遺族の証言を通し、策定過程がとても分かりやすく明らかにされていた。取材力の光る、丁寧に作り込まれた番組だと感じた。ドラマの手法で当時の関係者の心情をうまく表現し、平和を希求しその理念を憲法に加筆していった人々の姿を、臨場感をもって伝えていた。
- 5月6日(土)のNHKスペシャル「日本国憲法 70年の潮流～その時、人々は～」は、これまでのNHKの世論調査における憲法改正賛否のデータの推移を追い、そのときどきの国内外の情勢、国民意識の変化、時代的な枠組みをうまく編集していた。改憲運動と護憲運動を中心的に担ってきた当事者の貴重な証言も交え、これまでの憲法改正をめぐる動向を歴史的な視点でうまく整理していた。
- 5月3日(水)の憲法記念日特集「施行70周年いま憲法を考える」は、与野党の代表の参加の下での論議だった。憲法審査会で論議されているテーマ、論点について、視聴者の理解を深めるための進行上の工夫が凝らされていると感じた。
- 5月6日(土)のE TV特集「暮らしと憲法 第1回 男女平等は実現したのか」、5月13日(土)のE TV特集「暮らしと憲法 第2回 外国人の権利は」についても戦後の歩みの中で憲法がそれぞれのテーマにどのように関わり、到達点がどこにあるのかをきちんと問題提起する見応えある番組だったと思う。今年は安倍首相の改憲を目指す姿勢がより明らかになるなど、憲法をめぐる状況は大きく変化しつつあると思う。NHKは公共放送として、国民一人一人が憲法にしっかりと向き合い、考え、判断するための情報を、不偏不党の立場で公平公正に分かりやすく発信する大きな役割が期待されていると、改めて実感した。
- 憲法に関する番組は、多面的な視点から議論していることに意味があると思った。短いニュース番組などでは、どうしても9条に集中してしまう傾向があると思うが、

多面的な議論ができるのはNHKならではのと思う。一つの番組の存在に気づく方はいるかもしれないが、多様な側面から作っているのも、ほかにも関連の番組があることが分かれば、もっといろいろと見たいと思う方も出てくると思う。その伝え方は、今後工夫してほしい。憲法のことに限らず、NHKならではの大型のプロジェクトについては、関連するさまざまな番組の情報がうまく伝わるとよいと思う。

- 5月7日(日)のNHKスペシャル「世紀の発見！日本の巨大恐竜」を子どもと一緒に見た。こういう番組は子どもにとって興味深いようだ。巨大恐竜の全体の骨が出てきたことは大きなニュースであり、タイムリーに番組になったことがうれしかった。科学的にいろいろな分析をし、CGも使用し、どうして今までこのような骨が出てこなかったのかななどを分かりやすく説明していた。すごく楽しい番組だった。
- 5月14日(日)のNHKスペシャル「和食 ふたりの神様 最後の約束」はとてもよい番組だった。老いを淡々と描き、すごく元気というわけでもないが活躍している、しかしその中でも老いが来るという視点は、今後の高齢化社会で大事ではないかと思った。また5月13日(土)の京都人の密(ひそ)かな愉(たの)しみ「桜散る」(BSプレミアム 後 9:00~10:59)は、長い時間をかけ、今回の放送に至ったシリーズだった。いずれも落ち着いたよい番組だったと思う。
- 3月25日(土)のSONGSスペシャル「ディズニー・ミュージカル名曲集」(総合 後 10:30~11:10)を見た。今のミュージカルスターの方たちが集まっている番組だった。衣装、照明、バックの生オーケストラ、フリートークの内容などがよく考えられていた。音楽を映像で扱うときにそのクオリティーをおろそかにすると、特にクラシックなど、芸術分野のものになるとその手を抜いた感じがよく分かってしまう。予算の面、手間暇の面など、その芸術にふさわしい番組作りをこれからも担保してほしいと思う。
- 4月24日(月)のクローズアップ現代+「アメリカに監視される日本 ~スノーデン“未公開ファイル”の衝撃~」と、27日(木)の「プライバシーか？ セキュリティーか？ ~スノーデン“日本ファイル”の衝撃~」を見た。NHKの独自取材で、資料的価値もある、よい番組だと思った。
- 4月29日(土)の小さな旅「乾きの里 潤う時~大分県 国東市~」の再放送を見た。NHKは、農村の今の状況を、おもしろおかしくではなく、関心を持ってもらえる形でよく紹介している。そのことに感謝するとともに、今後も続けていって

ほしい。国東市は降水量の少ない地域だ。集落のため池を守る「池守」という役割の重荷、生きがい、厳しさを伝えていた。少ない水をみんなでどうやって有効活用するかということで、「池守」には難しさもあるが、誇りを持ってやっているということだった。Iターン、Uターンの人もいて、そのことが農村の光でもあるし、難しさでもある。過疎地も含め、農村の厳しさ、難しさを描こうと思えばいくらでも描けるし、明るさを描こうと思えば描けるが、バランスを取って描いていた点がよくかった。多くの人が都市部に住む中で、農村の実情を取り上げるだけで十分に番組になるし、とても貴重であると改めて思った。NHKにはそういう番組が多くある。4月15日(土)のにつぼん紀行「“みんなの本屋”へようこそ～北海道 留萌～」(総合 後6:05～6:38)では、過疎地域の本屋を地域の人たちで支えていることを、よい形で取り上げていた。「鶴瓶の家族に乾杯」などエンターテインメント番組でも農村や過疎地のよさ、難しさを伝えているが、多少堅い番組も含め、引き続き伝えてほしい。

- 5月7日(日)のにつぼん紀行「俺たちがつくる高層ビル～東京・渋谷～」(総合 後6:05～6:38)で渋谷の高層ビルを建てている若者たちを取り上げていた。渋谷を通るとき、建築現場を下からいつも見ていた。番組では若い20代の人たちが一生懸命にがんばっており、中でも養護施設で育った青年が活躍していて、後輩たちにいろいろなメッセージを伝えていた。私たちに身近なところできめ細かな視点、温かな視点をNHKが注いでくれていることに感謝している。
- 5月8日(月)、朝7時の「NHKニュース おはよう日本」について。未明にはフランスの大統領選の結果が分かる日であり、この日は新聞の休刊日だった。NHKのニュース番組でどう伝えるのだろうと思い、7時台の「おはよう日本」を見ていたが、最初に取り上げたのは北九州の火事のニュースだった。どちらがニュースとして重要かは判断があるが、新聞休刊日だけにフランス大統領選について知りたかった人も多かったように思う。火事も大変なことだが、順番が違うのではないかと思った。

(NHK側)

5月8日(月)にフランス大統領選の開票が始まったのは午前3時だった。総合テレビでは、午前2時55分から3時15分までニュースを特設して伝えた。午前4時にもニュースを特設し、北九州のアパート火災の情報とともに伝えた。その後、午前5時、6時台の「NHKニュース おはよう日本」と展開していった。午前7時の「NHKニュース おはよう

日本」に関しては、その時点で北九州のアパート火災で6人が死亡、連絡の取れない人が2人いる状況だった。その時点でのニュース性を判断し、北九州のアパート火災をトップに置き、2分ほど伝えた後でフランス大統領選について詳しく伝えた。そのような経緯だ。

- 5月8日(月)の「逆・転・人・生」(総合 後 10:25~11:10)を見た。山で遭難すると一般的には1週間たつと大抵生きていないといわれている中で、14日間生き抜いた人の過程が分かった。生き抜いただけでなく、その後に結婚し、子どもが2人でき、その光景が見事に“逆転人生”のねらいのようなものをうまく表していて、実話なのに物語を見ているように思わされた。生きるヒントのようなものを与えてくれる、テレビらしい番組だと思った。
- 「逆・転・人・生」では、生きようという気力が奇跡を生んだことがよく分かった。どんな荷物を持っていったのかを点検し、遭難救助の方、医者、また家族が遭難者を捜すときのチラシの作り方を探偵に聞くなどしていた。死から生へと逆転する力強さを感じさせる番組だった。今回は、生と死という対比があるのでとても分かりやすいが、現代社会では何が逆転なのかよく分からないことも多いと思う。逆転を分かりやすく、きちんと説明できるような番組をこれから作ってもらいたい。14日間もミミズ、アリなどを食べたそうで、本当に壮絶な実話だった。それをドラマのような形で見せ、そのすごさがよく分かった。これからの番組に期待したい。
- 3月の審議会で「ガッテン！」について言及した。20年も番組を続けてきて、そろそろテーマも枯渇してきているのではないか、論文の取り上げ方など気をつけなければいけないと批判をした。5月10日(水)に放送した「めざせ健康長寿 大注目の検査はこれだ！」では慢性炎症を取り上げており、多くの人が気づいていながらなかなか明確になっていないテーマを扱っていた。おそらく論文をたくさん読んでもっと話したいことがあったのだろうと思う。たとえば認知症、動脈硬化も慢性炎症が原因ではないかと、いろいろなことが推測されており、いくつかの論文が出ている。しかし番組ではそうした論文には手をつけず、CRPというどこのドックでもやっているような当たり前の検査のデータを扱い、一般の人は見逃してほとんど注目していなかったことをうまく番組にしていた。2か月前に厳しいことを言ったが、まだそういうねらいがあったのか、まだ大丈夫だと思った。
- 5月14日(日)に再放送した「初音ミク×鼓童スペシャルライブ~ジャパンコンテンツのミライ~」(総合 前 0:50~1:34)を見た。初音ミクについてその誕生か

ら分かりやすく説明しており、知らなかった世界をやっと理解できた気がした。太鼓をたたく鼓童の人たちは本物の人間だが、その奥にバーチャルの女の子のアイドルである初音ミクが映っていて、そこにたくさんの人が声援を送るのには違和感を覚えた。ただとてつもないエネルギーだったので、これも一つのカルチャーなのかと強烈なインパクトがあった。初音ミクは髪が青緑、足は長く、目がすごく大きく、永遠の16歳であり、自分たちの理想が形になったアイドルだという男性の気持ちがあるのだろう。日常を生きる中で自分の思いどおりになることは少ないが、その中で初音ミクは一つの癒やしとして存在し、みんなでその音楽を楽しむという新しい世界があることがよく分かった。興味が湧き、のぞいてみたい気持ちになった。

- 5月9日(火)のハートネットTV「亜由未が教えてくれたこと」を見た。昨年7月の相模原市の障害者施設の殺傷事件の犯人が「障害者の家族は不幸」と言ったことについて、この番組を制作したディレクターは、自分の妹は障害者だが家族は不幸ではないと証明したいということで、1か月間の介助の様子を撮り番組にしたものだ。身内の障害者の取材は、通常の番組とは異なる苦労があったのではないかと思う。家族、特にお母さんの強さ、バイタリティーには驚いた。番組の目標は障害者の家族が不幸ではないことの証明であり、それは達成していたように思う。母、父、障害者ではないもう1人の妹から、実際に介助してきてどんな苦労があったのかなどをもっと聞きたかった。その妹は、障害のある亜由未さんに家族がかかりきりになってしまい、とても苦しんだそうだ。そうした切実な思いをもっと聞きたかった。ディレクターは妹を笑わせることが介助の目的のようになっていたが、お母さんは「結果的に笑顔だったことと笑顔を求めることは違う」と言い、お父さんは「普通の人だっていつも笑っているわけじゃない」と言っていた。そういう普通の会話がすごく印象に残った。父母が亜由未さんを介助する時の気持ちに時間をもっと取っていれば、さらによい番組になったのではないか。続編も見てみたい。

(NHK側)

放送日は決まっていないが、「ETV特集」で前回収まらなかった部分や、その後も含め、放送する予定だ。ご覧いただければと思う。

- 5月14日(日)のバリバラ「バリバラジャーナル 見え始めた精神医療の実態」で精神科への長期入院の問題を取り上げていた。この問題は深刻な部分がある。批判が来やすいので、番組を守る必要があるのではないかと思った。取り上げたことは大変勇気があると思う。

- 4月29日(土)のBS1スペシャル「雇用は守れるか～アメリカ ラストベルトの労働者たち～」(BS1 後9:00～9:49)を見た。なるほどそういうことなのかと納得した。鉄鋼労働者の感じがよく伝わった。
- 5月13日(土)に再放送したBS1スペシャル「欲望の民主主義～世界の景色が変わる時～」(BS1 後8:00～9:49 <一部ニュース中断あり>)を見た。初回放送は4月23日(日)で、5月に決戦投票が行われたフランス大統領選の前に放送された番組だった。インタビューを受けているのはヨーロッパの方が中心で、民主主義が何であるのか改めて問い直す意味で興味深く見た。私が見た再放送時には、フランス大統領選の結果が分かっていたので、もし初回放送の時に見ていたらまた違った感じ方だったろうかと、視聴時期が見る側にどういう影響を与えるのかという意味でも興味を持った。アメリカ、あるいはヨーロッパの視点で民主主義を捉える番組が多いが、日本、アジアが、世界の動きに合わせどう変わりつつあるのかも取り上げるとおもしろいのではないか。トランプ政権が100日を過ぎ、いろいろと見えてきていることもあると思う。

(NHK側)

BS1スペシャル「欲望の民主主義」は、もともとBS1スペシャル「欲望の資本主義」という保護主義の議論をした番組の延長線上にある。世界の識者の最先端の議論を分かりやすく伝えるように考えている。今のところはアジアにフォーカスした企画は動いていないが、そういったテーマも今後検討したい。

- 5月13日(土)の体感！グレートネイチャー「目撃！煮えたぎる地底のマグマ～チリ・巨大火山地帯～」(BSプレミアム 後7:30～8:59)を見た。チリにあれだけの火山があり、噴火もしていることは知らなかった。日本も火山国であり、リスクな状況にある。チリの火山にまで日本人の学者が自分の足で登り、少しでも噴火の予兆が分かればとがんばっている。そういう日本人が世界にいると分かりうれしくなった。
- 4月16日(日)の山本地方創生大臣の失言、4月25日(火)の今村復興大臣の失言に関する報道を見比べて気になった点がある。山本地方創生大臣のときは釈明している映像だけで、実際に発言したときの映像はなかった。NHKだけでなくほかの局もそうで、映像がなかったのだと思う。今村復興大臣のときはパーティーで実際に発言している映像があった。釈明部分の映像だけ使うというのは報道のあり方

としてよいのだろうか。テレビは映像がなければ伝えられないので、難しいところがあると思うが、映像中心の考えがもたらす弊害もあるのではないか。

(NHK側)

4月16日(日)の山本地方創生大臣の発言は地方でのことで、映像がなかった。その後、大臣の発言について批判の声が上がり、本人が釈明した。報道すべきニュースと判断し、本人の釈明、野党の意見なども含めて伝えた。4月25日(火)の今村復興大臣の発言については、所属する派閥のパーティーでのあいさつでのことで、映像もあったため、その発言と釈明を映像で伝えることができた。

- この1か月は憲法、トランプ政権、ヨーロッパに関する番組など、よいものがあった。それぞれこれからも課題の続くテーマだが、大きな時代の変革の時かもしれないので、粘り強く追ってほしい。
- この1か月は憲法施行70年もあり、天皇制の問題もあり、難しい月だったと思う。その中でNHKは公共放送としての存在価値を示すようなすばらしい番組が多かったという意見はそのとおりだと思う。アメリカのメディアはトランプ政権と闘っている。ヨーロッパ、アメリカの民主主義を問うのと同時に、日本、アジアにおける民主主義のゆくえにもフォーカスしてほしいという意見もそのとおりだ。NHKには新たな存在価値が問われると思うので、大いに期待している。

NHK編成局  
番組審議会事務局